



開発教育支援の現場から JICA研修員学校訪問

10月21日、JICA研修員が札幌市立大谷地小学校を訪問し、日本の小学生と交流しました。研修員たちはタンザニア・ガーナ・カメルーン・バヌアツ・中国から札幌に土木行政について学びにやって来た6人。およそ1ヵ月半の研修滞在期間のうちの1日間を日本の学校へ訪問するこのプログラムを、研修員も心待ちにしていました。

4年生はハッピー姿で研修員を出迎えてくれました。当日は2、4、5、6年生との交流の中でケン玉などの日本の昔遊びや、英語すごろく、ジャンケンで負けた人が後ろにつくジャンケン列車などを一緒に楽しみました。また研修員もそれぞれのお国事情を紹介しました。各交流の最後にそれぞれの学年から歌や踊りのお礼をいただいた研修員達はみんな大感激。とても楽しい1日でした！



4年生はハッピー姿で研修員を出迎えてくれました



肩に手を乗せジャンケン列車がGo!



給食を共に楽しむ中国の研修員



ガーナの研修員も盛り上がり拳を突き上げます

JICA札幌ニュース



財団法人札幌がんセミナー スリランカを訪問 草の根技術協力(提案型) 事前調査

財団法人札幌がんセミナーの小林理事長がスリランカを訪問し、学校レベルでの生活習慣病(不適切な食事、運動不足、喫煙、飲酒などの生活習慣に起因すると考えられる病気)の予防教育の実施方法についてスリランカ国の保健省、現地のNGO、そして学校と協議を行いました。がん予防の普及・啓蒙活動を札幌で行ってきた(財)札幌がんセミナーが、北海道での経験を活かし、平成18年から生活習慣病の予防活動をJICAと共同でスリランカで実施する予定です。

JICAでは、「草の根技術協力事業」として、日本のNGOや公益法人がこれまで培ってきた経験や技術を活かし行う、開発途上国の人々の生活改善・生計向上に役立つ、きめ細やかな国際協力活動を支援し、共同で実施しています。
(JICA札幌 黒川)



スリランカの子どもたちと小林理事長
パイロットプロジェクトの候補の学校にて



旭川でアフリカ祭りが開催されました。 —旭川から—

10月9日旭川市内での「アフリカ祭り」の中で、「JICA国際協力パネル展」と青年海外協力隊ニジェール、エジプト(幼稚園教諭・保育士)OG、現在旭川在住で「特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(Can Do)」の活動に参加されている石井優子さんによるワークショップが開催されました。Can Doは現在、ケニアでの「JICA草の根技術協力事業パートナー型」を受託(JICA東京)しており、今回はケニアの状況、Can Doの現地活動などを話していただきました。参加者は30名を越え、「ケニアでの幼児教育の現状は?」「現地での生活は?」など質問も活発で盛会となりました。
(国際協力推進員(旭川) 鳥居)

旭川の国際協力推進員の連絡先:
T E L : 0166-27-1590
E-MAIL : jica-asa@atlas.plala.or.jp
住 所 : 旭川市6条通10丁目旭川第三庁舎国際交流課内



ケニアの事情を語る
石井青年海外協力隊OG



函館でベトナムのストリートチルドレンの講演会が 開催されました。—函館から—

去る10月21日(金)函館市国際交流プラザにて『ベトナム「こどもの家」を支える会』の代表、小山道夫氏による講演が行われました。小山氏は23年間、東京の小学校で教鞭をとられた後、研修旅行で行ったベトナムでストリートチルドレンと出会い、大きな衝撃を受け、半年後単身ベトナムへ渡りました。そしてフエ師範大学で日本語教師をする傍ら、ストリートチルドレンのための支援活動を行い、1994年に「こどもの家」を設立しました。設立に至るまでの家族、親戚、友人らの反応、共産主義の根深いベトナムのシステムの中で、「こどもの家」を運営する苦勞話などをジョークを交えて楽しくお話していただきました。また、JICAと係った開発福祉支援事業の様子や小山先生の考えるボランティアの意味などを熱く語っていただき、参加者は小山氏の話に熱心に耳を傾けました。
(国際協力推進員(函館) 岡田)

函館の国際協力推進員の連絡先:
T E L : 0138-22-0770
E-MAIL : jicadpd-desk-hakodateshi@jica.go.jp
住 所 : 函館市元町14-1 財団法人北海道国際交流センター内



ベトナムのストリートチルドレンについて
話をする小山氏